

令和 6 年 5 月 21 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H00065

研究課題名（和文）中国農民工の組織化をめぐるガバナンスの変容 中華全国総工会と労働NGOとの関係性

研究課題名（英文）The Transformation of Governance over the Organization of Peasant Workers in China: The Relationship between the All-China Federation of Trade Unions and Labour NGOs

研究代表者

石井 知章 (Tomoaki, Ishii)

明治大学・商学部・専任教授

研究者番号：90350264

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 24,900,000円

研究成果の概要（和文）：プロジェクトは、中国武漢からはじまったコロナウィルスの蔓延によって、2020年春からの全世界的パンデミックの拡大とともに着手された。そうした条件の下で調査研究に着手せざるを得なかったことの制約は、きわめて大きなものであった。中国側のゼロコロナ政策は、実質上、2023年以降も継続されたため、最終的には個人レベルで数人が現地調査できたにすぎず、それ以外は文献調査に頼らざるを得なかった。とはいえ、国際シンポジウムをZOOMで開催し（2022年10月）、さらにこれに基づいた成果物である石井知章編著『ポストコロナにおける中国の労働社会』（日本経済評論社、2024年）を出版することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで日中間で継続してきた「日中雇用・労使関係シンポジウム」は断念せざるを得なくなった。オンラインで国際会議は開催できたが、今度は「改正反スパイ法」が施行され、極端な言論抑圧状況となり、労働情報のやり取りも、中国国内の労働関連ニュースへのアクセスも、ほぼ不可能な状況に陥った。研究はまるで文革期の「外国と内通して祖国を裏切る行為」のように見なされ、文献調査以外、ほぼ不可能な状況となった。とはいえ、こうしたいくつもの困難な状況の中で、上記成果物である石井知章編著『ポストコロナにおける中国の労働社会』（日本経済評論社、2024年）を出版することができたことの社会的意義はきわめて大きいといえる。

研究成果の概要（英文）：The project was launched in December 2019 with the spread of the coronavirus in Wuhan, China, along with the spread of the global pandemic from the spring of the following year. The constraints of having to undertake research under such decisive conditions were no wonder enormous. China's Zero-covid policy effectively continued beyond 2023, and therefore only a few project team members were able to conduct field surveys at the individual level, and the rest was obliged to undertake literature surveys. Nevertheless, it is a significant outcome that we managed to hold an international symposium on ZOOM (October 2022), and finally published a work based on this symposium, entitled "China's Labor Society in the Post-Corona Era" (Nihon Keizai Hyouronsha, 2024), edited by Tomoaki Ishii.

研究分野：中国政治

キーワード：政治学 労働社会学 労使関係 経済学

1. 研究開始当初の背景

「非正規」労働者としての農民工を中心に繰り広げられたホンダのストライキ(2010年)に見られるように、中国の労働社会は官製労働組合運動とはまったく異なった一連の「非正規」労使紛争を呼び起こしている。これまで官製労組(中華全国総工会)の支配下にあった「個別的」労使関係は、現習近平体制の下で「集团的」労使関係へと大きな変化を遂げている。この二つの労働運動の生起は、中国農民工の組織化をめぐるガバナンス構造の変容にいかなるインパクトを与えるのか。官製労働組合は一枚岩的システムなのか、それとも市場経済に適合的なものなのか。したがって、研究開始当初の背景には、中華全国総工会と労働NGOとの関係性の分析を通し、中国の労働社会における根源的局面を解明すべきという切実なる状況があった。

2. 研究の目的

労働者による「集团的」紛争事案は、2015年以降、集团的労使紛争の案件数は減少傾向にあるが、関係する労働者の数はむしろ増加している(『人力資源和社会保障事業発展統計公報』、2017年)。こうした労使紛争の遞減の背景の一つには、全体の雇用の6割を占める非正規労働の中心的主体である農民工を工会の制度的枠組みに吸収していったことが挙げられる。2013年に2億8,000万人であった中華全国総工会組合員総数は、2018年には3億人を超え、農民工はその半数近い1.4億人を占めており、従業員の工会加入率は80%を超えている(『中国工会第17次全国代表大会報告』、2018年)。ここには企業や地域というマイクロレベルでの賃金決定プロセスと、党=国家体制によって「上から」行使されるマクロレベルでの政治と経済との関係性が認められる。というのも、具体的労働政策の立案、そしてそれを施行する中国政府(労働部)、および中華全国総工会による政策立案・決定プロセスへの直接関与が、それぞれ密接な相互関連性に置かれているからである。したがって、ここでの研究課題の核をなす「問い」は、経済的要因と政治的要因の間の因果関係、およびそれを制度的に形づくっているマクロレベルでの党=国家、さらにその制度的枠組みの中心的アクターとしての中華全国総工会、さらに社会の末端レベルでの労働者(労働者集団としての労働NGO)が、いかなる立体的相互関係におかれているのかにある。とりわけ2000年代以降、それまで未組織であった巨大な農村人口としての農民工を積極的に中華全国総工会の組織へと吸収するという政策が継続されている。その結果、人口管理を刷新し、戸籍制度改革を急ぎ、鎮や小都市への転入制限を全面的に解除するとともに、中規模都市への転入制限も順次解除し、かつ大都市の転入条件を合理的に決定することにいたったことは、中華全国総工会の潜在的役割をとくに際立たせている。このように、中国政府と中華全国総工会との中央レベルでの協力関係の下で、多くの農民工が中華全国総工会へ組織化され、都市転入農民は城鎮の社会保障体系に組み入れられ、農村で加入している養老保険、医療保険を都市社会保障体系に移行しており、労働社会のガバナンスは大きく変容しつつある(『中国工人階級四十年』、2018年)。

こうした巨大な変化は、習近平体制が成立し、本格的に動き始めた2015年に集中的に見られた。官製の労働組合(中華全国総工会)に組織化されていない農民工を支援する広東省の労働

NGO(実質的労組)に対して、中国政府は「社会組織管理弁法」(2015年1月)を施行し、さらに全国規模では「境外非政府組織管理法」(2015年4月)を打ち出し、党と国家の管理下にある官製労働組合の機能を補完してきた労働NGOに対する取締りを強めていった。

その結果、当局はこの年、何百人もの弁護士や活動家を一斉に弾圧したが、その後も拘束され続けた活動家や弁護士は数多くに及んだ。この年の12月には、広東の労働NGOに対しても一斉に弾圧がおこなわれた結果、ほとんどの「下から」の労働NGOは閉鎖を余儀なくされるか、政府のアウトソーシングとして「上から」再編成されるに至っている。また2018年5月以降、広東深圳の外資系企業での労働争議を支援した学生たちの多くは、同年8月以降、身柄を拘束され、2019年9月現在でも、その多くが拘束されたままである。

したがって、本プロジェクトの目的は、こうした大きな矛盾に満ちているように見える習近平体制下における労働社会を、中華全国総工会(ナショナルセンター)、労使紛争が集中的に生起している広東省・深圳市総工会、労働NGOという三つのアクターの「結節点」としてとらえ、「上から」の官製労働組合と「下から」の労働NGOという二つの並存する労働運動の実態を明らかにする。そのうえで、中央・地方・基層(末端)という立体的に構成された労働社会全体の構造と内的メカニズムについて明らかにし、今後の労使関係を媒介とした国家(共産党)と社会(総工会=労働組合)との具体的関係の現状と今後の課題を、十分な学術的根拠をともなう総合的実証研究として根源的に問う。なぜならば、中国には「上に政策あれば、下に対策あり(上面有政策、下面有対策)」という言葉があるように、中華全国総工会(中央)と労働NGO(基層)とは、そうした隠微な「上下関係」におかれているからである。

3. 研究の方法

これまでの中国研究では、各分野のNGOやNPO全般についての研究はいくつもあったが、労働NGOに特化しつつ、それと中華全国総工会、ならびに広東省総工会・深圳市総工会との関係性を、中央と地方のレベルでトータルに描き出すという作業はまったくおこなわれてこなかった。それは労働分野を専門にする社会政策学の研究領域においても、ほぼ皆無であった。本研究の最大の特徴は、たんに日本国内における中国研究者・労働問題研究者の共同研究にとどまらず、中国側の労働NGOと中華全国総工会をめぐる研究パートナーとの国際的共同研究としての意味を持つ、という点にある。すなわち、これまで基盤研究A「権威主義体制と市場を媒介する法と政治 中国的メカニズムの解明」(2010~2014年)、基盤研究A「習近平時代の労働社会 労働運動をめぐる法・政治・経済体制のゆくえ」(2016~2019年)などの研究プロジェクトでの代表者・分担者として、研究代表者(石井)はすでに、これら研究活動への参与を通して、中国側のとくに労働分野の最高権威である常凱(首都経済貿易大学教授)や喬健(中国労働関係学院教授)など、法律、政治、経済、社会、それぞれの分野の代表的研究者らと長年共同研究を続け、堅固なる信頼関係、研究上の協力関係を築いている。とくに今回、研究協力者として参加している王侃(Wang Kan)氏(中国労働関係学院副教授)は、中国における労働NGO研究の第一人者であり、かつて明治大学にも客員研究員として半年間滞在している。このことは、労働分野での研究において、このほか

重要な意味合いをもつ。というのも、中国社会主義国家にとって、労働問題とは、かつてのポーランドでの体制変換を想起しても分かるように、この政治体制を支える労働者=主人公としての本質的な側面を持っており、その労使紛争・労働運動が抱える問題には、即座に体制批判に転じ得るという意味合いがあるからである。なかでも、中国の労働組合のナショナルセンターである中華全国総工会と対立構図を深めつつある労働NGOに関する情報は、最大級のタブーともいえる事柄であり、これらへのアクセスは、長年培ってきた人間関係、および相互の信頼関係を抜きにして考えることはできない。同じことは、長年、深圳市総工会と密接にさまざまな活動を展開してきた今回の研究協力者Jane Liu (Senior Manager in Shenzhen, SocialAccountability International, USA)とわれわれとの協力関係についてもそのまま当てはまる。上記の研究目的を達成するために、本研究プロジェクトは、日本国内で最も優れた研究体制・人員配置(とくに日本側の参加者のほとんどが長期の留学経験・実務経験を擁し、流暢な中国語を操る)を擁することに、その最大の独自性と創造性を備えている。これらは西側の研究者にはけっして追従できない、きわだった優位性である。

4. 研究成果

本研究の目的を達成するための準備は、科研費 A「習近平時代の労働社会 労働運動をめぐる法・政治・経済体制のゆくえ」(2016~2019年)の実施期にまで遡る。結論からいえば、この第2期の総括論文集として出版された『日中の非正規労働をめぐる現在』(御茶の水書房、2019年)では、中国側の論考は近未来型非正規労働を論じるものが大多数であった。

これをうけてまず梶谷は、「新たな労働問題に悩むシェアリング経済先進国」(『週刊東洋経済』、2017年6月17日)を先駆けてまとめた。というのも、日本側にとって非正規「雇用」の歴史は対象が限定的なものであり、その外側にさまざまな非正規就労形態が広がっていることを認識できていなかったためである。一方、われわれは、中国が欧米諸国と同様にデジタル型の新たな就労形態が輩出しつつあることをこのときはじめて理解し、その後、ときには日本に長期滞在中の常凱教授にもご指導を仰ぎつつ開催した内部研究会(2023年4~7月)でも議論を継続した。さらに梶谷は、「米中通商交渉とその課題 『デカップリング』は現実的か」(川島真・森聡編『UP plus アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序』東京大学出版会、2020年)や、「中国経済における「制度」の連続性をめぐって」(村上衛編『転換期中国における社会経済制度』京都大学人文科学研究所、2021年)などの論考でも中国におけるデジタル経済社会の到来を示唆し、さらに「コロナウイルス感染症 COVID-19 と監視社会」(『サービソロジー』、第7巻1-4号、2021年3月)、「「幸福な監視国家」の経済学 産業政策・監視技術・文化対立」(『比較経済体制研究』、第59巻第11号、2022年2月)、「「情報独裁国家」統治のかたち 中国・産業政策と民営企業」(『外交』、第68号、2021年7月)、「コロナ禍への監視国家 中国と国民の対応 功利主義を超えて」(『研究中国』、第12号、2021年4月)などの諸論文でも、ポストコロナを念頭に置いた斬新な視点を次々と紹介して、日本国内におけるこの分野での議論を最先端でリードしていった。

一方、阿古は、「国家安全と民主主義の相克 新型コロナウイルスと香港問題を通して

考える」(『UP Plus コロナ以降の東アジア』東京大学出版会、2020年)、「新型コロナウイルス対策で私たちは歴史の教訓を生かせるのか ペスト流行期の東アジアを振り返りながら考える」(『SPF China Observer』笹川平和財団論考シリーズ、2020年5月)、さらに「中国モデルが世界を席巻? どうなる? コロナ後の習近平体制」(『中央公論』、2020年5月)、「コロナで変わる世界 「法の支配」議論を」(『毎日新聞』、2020年1月3日)といった論文や新聞・雑誌記事を通して、ポストコロナを見据えた中国の労働社会の今後のあり方について次々と問題提起し、その将来的展望を模索していった。

また石井も、「コロナショックで「中国の非正規労働者」が直面している深刻な現実」(『現代ビジネス』、2020年8月4日)、「中国のコロナ禍における労働組合の役割」(『明治大学リベラルアーツフォーラム』、第24号、2021年3月)、「中国におけるコロナ感染拡大予防運動と労働組合」(『WORK&LIFE 世界の労働』日本ILO協議会、2021年4月)、「デジタル時代の労働法のフロンティア」(『WORK&LIFE 世界の労働』、日本ILO協議会、2022年2月)などの論文を発表するとともに、さらに「日本のデジタル経済発展とポストコロナ時代の労働社会の将来」と題して、北京で開催されたオンライン国際会議でも報告・問題提起している(*Academic Exchange on the Flexibility in the Global Labor Market and New Forms of Digital Employment*, 23 September 2021, China University of Labor Relations, Beijing, China)。

さらに澤田は、「新型コロナ下の中国の失業保険 「新業態」の包摂を加速」(『社会福祉』、第62号、2022年)、「コロナ下におけるプラットフォーム経済の労働環境: ギグ・ワーカーのリスクと権益保護の視点から」(同第110号、2023年)など関連テーマの論考を発表している。同じく山口は、当該関連テーマの一部として、「中国: ゼロコロナ政策と労働者の国際移動」(『IDE スクエア(ウェブジャーナル)』、2022年1-6月)を発表し、また及川も、「中国「デジタル・レーニン主義」の思想的背景 社会治理と安全観を中心に」(『国際問題』、2022年2月)などを発表している。

最終的には、本プロジェクトの研究分担者らによってこの間、さまざまな機会を通して行われてきた文献調査、国内調査、国際会議報告への精査などを踏まえつつ、石井知章編著『ポストコロナにおける中国の労働社会』(日本経済評論社、2024年2月)というタイトルの論文集として結実し、日本国内で出版されたことで、日本社会および学会(学界)に広く受け入れられた。なお、本書は今後の社会的レスポンスと政治的状況を判断して、中国語での出版も検討している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計68件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 38(13)
2. 論文標題 「あじあんコモンズ」に集う人びと。 : 香港ジャーナリスト、中国人弁護士、地域住民	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京人	6. 最初と最後の頁 116,123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 336
2. 論文標題 習近平政権の統治手法と世論の反応 : 白紙運動や白髪運動にみる中国の人々の声	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『経済』	6. 最初と最後の頁 66,77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 及川淳子	4. 巻 17
2. 論文標題 習近平政権の「中国式現代化」 (特集 中国 : 地殻変動の底流を探る)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『研究中国』	6. 最初と最後の頁 6,14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶谷懐	4. 巻 第672号
2. 論文標題 「『内向き』志向を強める中国経済と『一帯一路』のゆくえ」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『東亜』	6. 最初と最後の頁 2,9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶谷 懐	4. 巻 2023/5
2. 論文標題 「ポストコロナの中国のマクロ経済政策 三本の矢はどう放たれたか」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 21世紀政策研究所編 『習近平政権の羅針盤 ポスト/ウィズコロナ時代の諸問題とそれへの対処 』	6. 最初と最後の頁 51,67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梶谷 懐	4. 巻 2023/10
2. 論文標題 「中国経済が抱えるリスク：不動産と地方財政」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アジア太平洋研究所編 『アジア太平洋と関西：関西経済白書2023』	6. 最初と最後の頁 16,21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章 編著	4. 巻 2024
2. 論文標題 (石井知章) 序章 ポストコロナ時代における中国の労使関係 「集団的」なものから「個別的」なものへの逆行か?	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『ポストコロナにおける中国の労働社会』	6. 最初と最後の頁 1,27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章 編著	4. 巻 2024
2. 論文標題 (常凱) 第1章 中国プラットフォーム雇用における不完全なる労使関係 その性質と規制	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『ポストコロナにおける中国の労働社会』	6. 最初と最後の頁 29,55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章 編著	4. 巻 2024
2. 論文標題 (王侃) 第2章 中国の工会 現状と課題	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『ポストコロナにおける中国の労働社会』	6. 最初と最後の頁 57,78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章 編著	4. 巻 2024
2. 論文標題 (劉剣) 第3章 中国の生産拠点における従業員参加メカニズム プロジェクトの現場から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『ポストコロナにおける中国の労働社会』	6. 最初と最後の頁 79,95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章 編著	4. 巻 2024
2. 論文標題 (ジェーク・リン) 第4章 福祉国家中国と商品化サイクルにおける出稼ぎ労働	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『ポストコロナにおける中国の労働社会』	6. 最初と最後の頁 97,114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章 編著	4. 巻 2024
2. 論文標題 (澤田ゆかり) 第5章 デジタル時代の新しい働き方に関する証言と課題 「外売騎手」を事例として	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『ポストコロナにおける中国の労働社会』	6. 最初と最後の頁 115,138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章 編著	4. 巻 2024
2. 論文標題 (梶谷懐) 第6章 中国における非正規労働者の就業状況と課題 家計調査データを用いた実証分析	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『ポストコロナにおける中国の労働社会』	6. 最初と最後の頁 139,160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章 編著	4. 巻 2024
2. 論文標題 (稲垣豊・山口真美) 第7章 中国における技能労働者不足と職業教育不振のジレンマ 職業系高校の就職と進路をめぐる考察	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『ポストコロナにおける中国の労働社会』	6. 最初と最後の頁 161,184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章 編著	4. 巻 2024
2. 論文標題 (及川淳子) 第8章 労働をめぐる社会意識の変化と習近平政権	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『ポストコロナにおける中国の労働社会』	6. 最初と最後の頁 185,210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章 編著	4. 巻 2024
2. 論文標題 (阿古智子) 第9章 中国の女性たちによる性暴力と構造的な差別への反発 浸透する#MeToo運動、法整備の問題	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『ポストコロナにおける中国の労働社会』	6. 最初と最後の頁 211,238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 850
2. 論文標題 複雑な「中国」とどう向き合うか：加速する言論統制に対抗するために：日中国交正常化50年とメディア	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『新聞研究』	6. 最初と最後の頁 42,45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 977
2. 論文標題 「時空を超えて香港の闘いをとらえる：台湾へのインプリケーション」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『交流』 台湾情報誌	6. 最初と最後の頁 1,5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 28 (7)
2. 論文標題 「形骸化する香港の「一国二制度」と国家安全維持法のインパクト」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『治安フォーラム』	6. 最初と最後の頁 39,46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 136 (6)
2. 論文標題 「戦争から得られる教訓 中国との情報戦に打ち勝つべし：ロシアの暴挙 揺らぐ秩序」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『中央公論』	6. 最初と最後の頁 92,99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 2023 (冬)
2. 論文標題 「国民を疑心暗鬼にさせる「いじめられっ子」習近平の独裁政権」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『現代の理論』	6. 最初と最後の頁 4,7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶谷懐	4. 巻 96号
2. 論文標題 「中国共産党は人民の不在にどう向き合うのか」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『現代中国』	6. 最初と最後の頁 17,32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 KAJITANI, Kai, CHEN, Guanghui and Kohei MITSUNAMI	4. 巻 22-E-11
2. 論文標題 "How Do Industrial Guidance Funds Affect the Performance of Chinese Enterprises?"	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1,25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 及川淳子	4. 巻 96
2. 論文標題 習近平政権の「思想学習」：社会の領域を中心に (特集 建党一〇〇年と「社会主義」中国のゆくえ)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『現代中国』	6. 最初と最後の頁 33,44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口 真美	4. 巻 Nov-22
2. 論文標題 第4回 中国 ゼロコロナ政策と労働者の国際移動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 IDE スクエア -- コラム 国際移動：アフターコロナをみすえて	6. 最初と最後の頁 1~6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20561/00053546	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寛劍 久俊、山口 真美、佐藤 宏	4. 巻 63
2. 論文標題 中国農民工の離職意向はどのような要因に規定されているのか 江蘇省蘇州市の製造業従業員調査に基づく実証分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 2~31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/ajiakeizai.63.2_2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井知章	4. 巻 158号
2. 論文標題 「K. A. ウィットフォーゲルの「アジア的復古」についての再検討 (下)」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『章牙ジャーナル』	6. 最初と最後の頁 6,11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章	4. 巻 2022/4
2. 論文標題 「子安宣邦『日本人は中国をどう語ってきたか』(青土社、2012年)をいかに評価すべきか 竹内好と吉本隆明の言説の間で」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『ちきゅう座』	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章	4. 巻 第61巻、第2号（通98巻）
2. 論文標題 「趙紫陽における『何傷』問題とマルクスの「アジア的」なものをめぐり」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『明治大学社会科学研究所紀要』	6. 最初と最後の頁 31,43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章	4. 巻 第37巻第1期（総第215期）
2. 論文標題 「少子化時代日本青年就業的現状と問題」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『中国労働学院学報』	6. 最初と最後の頁 1,11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 及川淳子	4. 巻 655
2. 論文標題 習近平の中国：ヤヌス像のアナトミー(4)「習近平時代」の思想宣伝工作：学校教育と家庭教育における最新動向	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『東亜』	6. 最初と最後の頁 78,85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 及川淳子	4. 巻 705
2. 論文標題 中国「デジタル・レーニン主義」の思想的背景：「社会治理」と「安全観」を中心に（焦点:習近平体制の現状と課題）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『国際問題』	6. 最初と最後の頁 52,62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 93
2. 論文標題 討論「中国」という巨大で強力な磁場の影響：研究者のポジションと必要とされる知のマッピング	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『現代中国』	6. 最初と最後の頁 67,69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 2021年9月号
2. 論文標題 変わる中国、変わらない中国 中国的人治構造「陳情」を手がかりに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『問題と研究』	6. 最初と最後の頁 139,167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶谷懐	4. 巻 第225巻(第3号)
2. 論文標題 「中国の産業政策と米中対立」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『国民経済雑誌』	6. 最初と最後の頁 53,6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梶谷懐	4. 巻 第59巻第11号、1-12頁、
2. 論文標題 「「幸福な監視国家」の経済学 産業政策・監視技術・文化対立」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『比較経済体制研究』	6. 最初と最後の頁 1,12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梶谷 懐	4. 巻 第705号
2. 論文標題 「習近平政権の成長戦略について：「国内大循環」と「共同富裕」は両立するか」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『国際問題』	6. 最初と最後の頁 19,29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梶谷 懐	4. 巻 第68号
2. 論文標題 「「情報独裁国家」統治のかたち 中国・産業政策と民営企業」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『外交』	6. 最初と最後の頁 62,67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶谷 懐	4. 巻 第12号
2. 論文標題 「コロナ禍への監視国家中国と国民の対応：功利主義を超えて」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『研究中国』	6. 最初と最後の頁 21,28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田 ゆかり	4. 巻 62
2. 論文標題 新型コロナ下での中国の失業保険 「新業態」の包摂を加速	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会福祉	6. 最初と最後の頁 43,54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井知章	4. 巻 2021-2号(4月発行)
2. 論文標題 「中国におけるコロナ感染拡大予防運動と労働組合」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『WORK&LIFE世界の労働』	6. 最初と最後の頁 2,8
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章	4. 巻 158
2. 論文標題 「K.A.ウィットフォーゲルの「アジア的復古」についての再検討(上)」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『葦牙ジャーナル』	6. 最初と最後の頁 2,7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章	4. 巻 2022-1号(2月発行)
2. 論文標題 「デジタル時代の労働法のフロンティア」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『WORK&LIFE世界の労働』	6. 最初と最後の頁 27,32
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章	4. 巻 2020年8月4日
2. 論文標題 コロナショックで「中国の非正規労働者」が直面している深刻な現実	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『現代ビジネス』web版	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井知章	4. 巻 第24号
2. 論文標題 中国のコロナ禍における労働組合の役割	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『明治大学リベラルアーツフォーラム』	6. 最初と最後の頁 8 - 10頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井知章	4. 巻 3452号 (2020年6月15日)
2. 論文標題 裏側にひそむ独裁者の歪んだ意志 フランク・ディクーター著『文化大革命 上・下』(人文書院)を読む	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『図書新聞』	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶谷懐	4. 巻 第222巻第2号 (2020年8月)
2. 論文標題 中国の対外援助と新興国の『早すぎる脱工業化』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『国民経済雑誌』	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kevin Luo, Tomoko Kinugasa, Kai Kajitani.	4. 巻 vol.29, no.5
2. 論文標題 Dynamic Efficiency in World Economy	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Prague Economic Papers	6. 最初と最後の頁 522-544
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18267/j.pep.746	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 梶谷 懐	4. 巻 第7巻1-4号 (2021年3月)
2. 論文標題 コロナウイルス感染症COVID-19と監視社会	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『サービソロジー』	6. 最初と最後の頁 15 - 21頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梶谷 懐	4. 巻 第46巻 (2021年3月)
2. 論文標題 中国経済の歴史制度分析に向けて 伝統社会におけるコンベンションの形成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『現代中国研究』	6. 最初と最後の頁 33 - 50頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 及川 淳子	4. 巻 131
2. 論文標題 六四・天安門事件と劉曉波 歴史に対し道義的責任を負う知識人	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『世界文学』, 2020年7月	6. 最初と最後の頁 p.48-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古 智子	4. 巻 -
2. 論文標題 何かの冗談か? マスク禁止から着用、活動家を次々逮捕...衝撃の現実: 香港情勢からコロナ後の世界を考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ウェブ『現代ビジネス』, 2020年4月27日	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 -
2. 論文標題 新型コロナウイルス対策で私たちは歴史の教訓を生かせるのか：ペスト流行期の東アジアを振り返りながら考える (Can we learn from history in the fight against COVID-19? Looking back on East Asia during the Bubonic plague epidemic)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『SPF China Observer』(笹川平和財団 論考シリーズ) 2020年5月3日	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 -
2. 論文標題 生きるか死ぬかは、自分たちが決める (特集 狙われる香港)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ウェブ『週刊金曜日』2020年6月12日号	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 -
2. 論文標題 周庭さん逮捕だけではない...恐怖が広がり学問の自由も侵害される「香港の現実」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ウェブ『現代ビジネス』2020年8月14日	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 -
2. 論文標題 新龍中国 (25) 国家安全維持法施行で暗黒化する香港	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『週刊金曜日』2020年9月25日号	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 -
2. 論文標題 巻頭言「国家安全維持法がもたらす世界の民主主義の後退」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東亜』2020年9月号、霞山会	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 -
2. 論文標題 香港が「萎縮社会」になりつつある...多くの日本人が知らない「衝撃実態」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『現代ビジネス』2020年11月24日	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 -
2. 論文標題 日本企業も関与「中国ウイグル族弾圧」で行われる苛烈な「強制労働」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『フォーサイト』2020年9月30日、新潮社	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 -
2. 論文標題 JIIAフォーラム「中国の戦狼外交の表裏：対外行動に影響を及ぼす要因」ダイジェストレポート	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際問題研究所、2020年11月10日	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 -
2. 論文標題 周庭氏らへの禁錮刑が暗示する香港司法の中国化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『Wedge Infinity』2020年12月3日	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 -
2. 論文標題 香港あなたはどこへ向かうのか (番外編) アウくん、どうか一日も早く日本で大学院の学業を再開できますよう	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 出版舎ジグホームページ、2021年1月8日	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 -
2. 論文標題 東京大学教授：阿區，祈求ni能早日重回日本學習	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『立場新聞』2021年1月8日	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 -
2. 論文標題 中国モデルが世界を席卷？どうなる？コロナ後の習近平体制」（宮本雄二・元在中華人民共和国日本特命全権大使、川島真・東京大学教授との鼎談）（英語版：Three Experts Discuss: Will the China Model Conquer the World? What Will Happen? The Xi Jinping System After COVID-19）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中央公論』2020年5月号	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 -
2. 論文標題 国家安全と民主主義 連帯は監視を超えられるか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『世界』岩波書店、2020年8月号	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 -
2. 論文標題 国家安全と民主主義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『学会会報』学会、2020年9月号	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 -
2. 論文標題 国安法で中国化する香港 日本は国際社会で役割果たせ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『ウェッジ』2021年3月号	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 -
2. 論文標題 国安法下中国化的香港 国際舞台上日本の作為	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Matters、2021年2月28日	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 16件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Sawada, Yukari
2. 発表標題 Emerging Confrontation between Generations: Youth vs Elderly in Japan on Distribution of Social Welfare
3. 学会等名 English Roundtable, 西安大学「第17回社会保障国際フォーラム」（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 梶谷 懐
2. 発表標題 「中国の産業政策をどのように評価するか」
3. 学会等名 アジア政経学会秋季大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 梶谷 懐
2. 発表標題 「中国における労働市場と非正規労働」
3. 学会等名 21世紀政策研究所主催シンポジウム「3期目を迎えた習近平体制と経済・外交政策」（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 梶谷 懐
2. 発表標題 「政府系ファンドは中国企業のパフォーマンスにどのような影響を与えるか」
3. 学会等名 RIETI政策シンポジウム「習近平政権の政策分析～2010年代の検討を中心に」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 梶谷 懐
2. 発表標題 「中国の不動産問題と合理的バブル」
3. 学会等名 21世紀政策研究所主催シンポジウム「3期目を迎えた習近平体制と経済・外交政策」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 及川 淳子
2. 発表標題 習近平政権における「思想学習」 社会の領域を中心に
3. 学会等名 日本現代中国学会 全国学術大会 共通論題：建党100年と「社会主義」中国のゆくえ(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阿古 智子
2. 発表標題 Crisis and Hope: Debating Democracy in Asia
3. 学会等名 アジア政経学会、櫻山セミナー
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井 知章
2. 発表標題 「日本の数字経済発展と後疫情時代労働社会的前景」、"Academic Exchange Lecture on the Flexibility in the Global Labor Market and New Forms of Digital Employment,"
3. 学会等名 China University of Labor Relations, Beijing, China
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梶谷 懐
2. 発表標題 「政府引導基金による出資が企業パフォーマンスに与える影響」
3. 学会等名 RIETIグローバル・インテリジェンス・プロジェクト（日本のサプライチェーンリスクと中長期的競争力に関する研究）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 梶谷 懐
2. 発表標題 「構造問題解決に向けた 最新経済・産業政策」
3. 学会等名 JETROウェビナー「中国の経済・産業政策をどう見るか」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 梶谷 懐
2. 発表標題 「中国共産党は「人民の不在」にどう向き合うのか」
3. 学会等名 現代中国学会全国大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梶谷 懐
2. 発表標題 「「幸福な監視国家」の経済学：産業政策・監視・文化」
3. 学会等名 比較経済体制学会第61回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梶谷 懐
2. 発表標題 「中国社会と普遍的価値の困難性：監視社会と功利主義」
3. 学会等名 立教大学史学会大会・公開講演会「人権と向き合う現代世界：権力と人権をめぐる現代人類史・誌的省察のために」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 澤田 ゆかり
2. 発表標題 香港のコロナ対応と社会政策：なぜ政治不信下でコロナ対策は遵守されたのか
3. 学会等名 日中社会保障研究会定例研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井 知章
2. 発表標題 最近の中国における労働事情　ポスト・コロナの労使関係のゆくえ
3. 学会等名 獨協大学総合講座「グローバル化と世界の労働」、2020年11月12日、獨協大学（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井 知章
2. 発表標題 中国のコロナ禍と労働組合：変化する労使関係
3. 学会等名 ソーシャルアジア研究会定例研究会、2020年12月10日、総評会館（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 梶谷 懐
2. 発表標題 新型コロナショックと中国経済
3. 学会等名 APIRオンラインフォーラム「アジアにおける経済のダイナミズムとグローバリゼーションの展望」, 2020年6月(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 梶谷 懐
2. 発表標題 コロナ禍の中の中国社会 監視社会と功利主義
3. 学会等名 CCI FUTURE IMPACT Forum, 2021年1月(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梶谷 懐
2. 発表標題 一帯一路構想は新興国に「債務の罠」をもたらすか
3. 学会等名 立命館大学国際地域研究所ウェビナー「一帯一路は何をもたらしたのか：中国問題と投資のジレンマ」, 2021年3月(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 及川 淳子
2. 発表標題 日本外交記録にみる天安門事件と日中関係
3. 学会等名 日本現代中国学会 関東部会 定例研究会, 2021年3月(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阿古智子
2. 発表標題 「China Impact, Future of Democracy (中国的影響、民主主義的下落)」
3. 学会等名 台湾・中央研究院, 2020年8月12日 (オンライン)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計25件

1. 著者名 石井知章 (編著)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 256
3. 書名 『ポストコロナにおける中国の労働社会』	

1. 著者名 栄剣 著 (石井知章監訳)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 256
3. 書名 現代中国の精神史的考察 : 繁栄のなかの危機	

1. 著者名 岸政彦・梶谷懐編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 中公選書	5. 総ページ数 384
3. 書名 『所有とは何か : ヒト・社会・資本主義の根源』	

1. 著者名 Shu-Mei Huang, Hyun Kyung Lee, and Edward Vickers (Tomoko Ako, Chapter 6. The Prison Gate as Leftist Heritage? Political Indifference and the Pursuit of 'Healthy Nationalism' in Japan)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 The Hong Kong University Press	5. 総ページ数 248
3. 書名 Frontiers of Memory in the Asia-Pacific Difficult Heritage and the Transnational Politics of Postcolonial Nationalism	

1. 著者名 阿古智子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 玉山社出版事業	5. 総ページ数 296
3. 書名 『香港：何去何從』	

1. 著者名 張博樹（著）、中村達雄・及川淳子（共訳）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 262
3. 書名 『紅い帝国の論理：新全体主義に隠されたもの』	

1. 著者名 川島 真（編著）（及川淳子 分担執筆：第8章「社会 一元化と多元化、社会変容の力学」）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 342
3. 書名 『ようこそ中華世界へ』	

1. 著者名 遊川和郎・湯浅健司（編）（澤田ゆかり分担執筆「第5章 加速する少子高齢化と社会保険の行方：「総人口縮小」で迎える試練の時代」）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 文真堂	5. 総ページ数 210
3. 書名 習近平「一強」体制の行方：中国の課題と展望	

1. 著者名 ール・マルクス, K.A.ウィットフォーゲル序（石井知章・福本勝清・周雨霏編訳）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 264
3. 書名 『一八世紀の秘密外交史』	

1. 著者名 中坂恵美子、池田賢市（編著）（及川淳子 分担執筆：6. 変容する「中国」の多様性と複雑性）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 260
3. 書名 『人の移動とエスニシティ 越境する他者と共生する社会に向けて』	

1. 著者名 一般財団法人 東アジア情勢研究会（阿古智子 分担執筆 第二章 日台が民主主義の発展で国際社会をリードするために）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 方丈社	5. 総ページ数 224
3. 書名 『台湾有事 どうする日本』	

1. 著者名 太田 仁志 (編) (山口真美 分担執筆 第4章 中国の2つの「新しい労働運動」 1989年天安門事件と2000年代)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所	5. 総ページ数 195
3. 書名 新興国の「新しい労働運動」: 南アフリカ、ブラジル、インド、中国	

1. 著者名 Kai Kajitani, Tomoki Kamo	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 100
3. 書名 Political Economy of Reform in China (SpringerBriefs in Economics)	

1. 著者名 石井知章・及川淳子編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 300
3. 書名 『六四と一九八九 - 習近平帝国とどう向かい合うのか』	

1. 著者名 川島真・森聡編、分担執筆: 梶谷懐	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 257
3. 書名 『UP plus アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序』(「米中通商交渉とその課題 『デカップリング』は現実的か」を担当)	

1. 著者名 村上衛編、分担執筆：梶谷懐	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学人文科学研究所	5. 総ページ数 423
3. 書名 『転換期中国における社会経済制度』（「中国経済における「制度」の連続性をめぐって」を担当）	

1. 著者名 廣野美和編、分担執筆：梶谷懐	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 356
3. 書名 『「一带一路は何をもたらしたのか：中国問題と投資のジレンマ』（「一带一路構想は新興国に『債務の罠』をもたらすか」を担当）	

1. 著者名 池本修一編、分担執筆：梶谷懐	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 320
3. 書名 『体制転換における国家と市場の相克』（「『緊縮と反緊縮』からみた中国の経済体制」を担当）	

1. 著者名 許紀霖（著）、中島隆博・王前（監訳）、及川淳子・徐行・藤井嘉章（共訳）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 344
3. 書名 『普遍的価値を求める：中国現代思想の新潮流』（叢書・ユニベルシタス；1121）	

1. 著者名 太田 仁志 (編) 分担執筆: 山口真美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所	5. 総ページ数 195
3. 書名 新興国の「新しい労働運動」: 南アフリカ、ブラジル、インド、中国	

1. 著者名 川島真・小嶋華津子 (編) 分担執筆: 澤田ゆかり	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 よくわかる現代中国政治 (担当132-134頁)	

1. 著者名 東大社研現代中国研究拠点、分担執筆: 阿古智子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 256
3. 書名 現代中国ゼミナール: 東大駒場連続講義 (分担執筆: 私のフィールドでの経験 エスノグラフィーによる現代中国研究)	

1. 著者名 阿古智子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 出版舎ジグ	5. 総ページ数 261
3. 書名 香港あなたはどこへ向かうのか	

1. 著者名 廣江倫子, 阿古智子編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 259
3. 書名 香港国家安全維持法のインパクト：一国二制度における自由・民主主義・経済活動はどう変わるか	

1. 著者名 東大社研現代中国研究拠点編（分担執筆：阿古智子）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 205
3. 書名 コロナ以後の東アジア：変動の力学（分担執筆：国家安全と民主主義の相克 新型コロナウイルスと香港問題を通して考える）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

特になし。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	及川 淳子 (Oikawa Junko) (40781836)	中央大学・文学部・准教授 (32641)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	澤田 ゆかり (Sawada Yukari) (50313268)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	山口 真美 (Yamaguchi Mami) (60450540)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・新領域研究センター ジェンダー・社会開発研究グループ・研究員 (82512)	
研究分担者	梶谷 懐 (Kajitani Kai) (70340916)	神戸大学・経済学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	阿古 智子 (Ako Tomoko) (80388842)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 中国農民工をめぐる国際学術会議	開催年 2021年～2021年
---------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関